

2. 研究の詳細

プロジェクト名	包括的スクール・カウンセリングにおける PBIS と促進要因との関連性の検討		
プロジェクト期間	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日		
申請代表者 (所属講座等)	西山 久子 (教職実践講座)	共同研究者 (所属講座等)	納富 恵子 (教職実践講座)
<p>① 研究の目的</p> <p>Positive Behavior Interventions and Support (PBIS) とは、米国において開発された生徒指導の包括的なプログラムのことである。米国等では、包括的 School Counseling における構成要素として活用されることが増えている (西山, 2017)。わが国においては、規範意識の向上や問題行動の軽減、学校適応の改善に、応用行動分析学の理論に基づく PBIS の検討が実践されている (たとえば松山・池島, 2014 ; 古市・西山, 2015)。古市・西山 (2015) は小学校での段階的な導入によって、児童の学力や学校適応への意識が高まる可能性を示唆している。中学校では、部活動における PBIS の一次的援助サービスの実践に基づく、部活動指導の改善(池島・山下, 2016)や、スクールワイドでの PBIS の一次的援助サービスが試みられている(三宅, 2016)。しかし、規範意識の向上については生徒指導の取組としての成果が示されているものの、学校適応援助としてのスクール・カウンセリング (包括的 School Counseling) に位置づけた論考はなされていない。</p> <p>本来、生徒指導では、児童生徒の成長を促進させるためには、非社会・反社会的問題行動への対応の発現を低減させるだけでなく、学校生活の充実に向けた取組を進めることが必要である。まず、児童生徒の規範意識や倫理観の向上への課題意識(文部科学省, 2010)は多くの教育関係者に共有されている。規範行動を向上させるために、問題行動を明確に指摘し、改善を促す方法が多く行われながら、課題の改善には至っていない。規範行動を促進させるためには、自尊感情に働きかけることが求められており (Sugai,2013)、これらはすべての児童生徒の学校生活における充実を目指す包括的 School Counseling とも方向性が合致する。</p> <p>よって本研究では、主に中学生の規範意識と自尊感情の向上を目指し、問題解決から開発的・成長促進的へとつながる包括的 School Counseling の動向に基づく理論と、応用行動分析の理論に基づき、米国で取り組まれている Positive Behavior Intervention and Supports (積極的行動支援 : 以後 PBIS) の実践を試行し、三層からなる理論的な共通性を反映した実践上の推進モデルを示す。</p> <p>② 研究の内容</p> <p>人格の形成に向けよりよく成長を促進させ、問題の改善に偏らない生徒指導が期待されるなか、本研究の内容は以下の 2 点に整理される。</p> <p>[一次的援助サービスにおける PBIS が包括的 School Counseling の中に体系的に置かれていない]</p> <p>包括的 School Counseling とは、アメリカ・スクール・カウンセラー協会 (ASCA, 2003) や Gysbers (1999) に示される通り、事後対応・予防・開発的援助を専任スクール・カウンセラー (SC) を中心に体系的に展開する実践的取組である (西山, 2013)。米国では SC が校内で PBIS の階層的な概念をふまえた実践を行っている。わが国では、生徒指導担当者・教育相談担当者・特別支援教育コーディネーターといった担当者が校内を俯瞰して支援することによって、同様の成果を得ることが期待できる。生徒指導に関してはわが国においても成長促進的・開発的な取組の必要性が示されているものの、これらを問題行動への対応から包括的に展開することに関することについては、実践が進められておらず、問題解決においては訓育的指導をしつつ、全体には PBIS などの心理教育的取組が行われるという支援の断続性が課題となっている。</p> <p>[包括的 School Counseling における問題解決的アプローチと PBIS の関係性が整理されていない]</p> <p>校内で包括的な取組と PBIS 等の開発的側面をもつ取組を推進するためには、それらの関係性が理論的にしめされなければ、実務的な担当を行う際の共有認知を得ることが困難である。</p> <p>よって本研究では、PBIS 等の導入を成功させることの基盤に求められる校内体制や併行して推進することが必要な概念について把握することで、これまで米国をはじめとする海外での先駆的なプログラムのわが</p>			

国への導入に課題となってきた基盤づくりに関する知見を得る。

そして得られた成果から、わが国で効果が期待される PBIS の導入にあたり、必要な基盤づくりについて、実践先への情報提供を行い研究の成果を見極める。併せて UDL 等の包括的 School Counseling を促進させる取組との併行から期待される効果を予測することで、実践的成果を高める。

このことにより、申請を検討する外部資金獲得に向けた実践研究の構想に有益な実証的成果を得て、協力を依頼する実践先の確保に役立てる。

実践的な意義として、包括的 School Counseling については、学習面・心理社会面・キャリア面から適応を促進させる必要があるとされている（西山，2012・2013）が、問題行動に対する指導では、教師は一部の児童生徒との関わりに時間を費やすことになり、全ての児童生徒へのサービスが行われるには至らない。これに対し、では、学校全体の児童生徒に対し、ポジティブな側面に目をむけ、好ましい行動を促進させることで、自尊感情を高めながら支援することが可能となるため、新たな成果が期待されている。

この取組については、国内での実践が始められ（松山・池島，2014）、福岡県内の小学校・中学校においても、導入が試みられ、学校適応への効果が実証的に検討されている（古市・西山，2014）。米国での実践においては、学びのユニバーサルデザイン（UDL）とともに推進され、成果を挙げているが、わが国では両者を推進することの有効性についての検討は行われていない。米国をはじめとする海外の実践では、PBIS 等の積極的生徒指導を単独で推進するのではなく、他の教育的プログラムと共に推進することによる相乗的な成果を期待した実践が行われている地域が多い（西山，2016）。そこで本プロジェクトでは、これまでに示された海外の実践について、学習面からポジティブな側面に着目した UDL 等の取組との相乗効果を明確にすることで、わが国の実践への示唆が得られると考える。

③ 研究の方法・進め方

本プロジェクトは、採択を得て研究方法を改訂し、以下の3点から推進を行う。

1. わが国では主に小学校において実践されている PBIS を、特に生徒指導に関する取組として推進を計画している中学校において導入し、成果を検討する。
2. 米国など包括的 School Counseling が実践されている地域で、PBIS 又はそれに類する生徒指導を導入している地域・学校の実践研究や実践報告から、PBIS 等の積極的生徒指導が実践される背景にある促進要因（例えば UDL）とその関連性についての理論的整理を試みる。
3. わが国に類似した面を多くもつ東アジア圏で、米国での取組を包括的に導入している地域（香港またはシンガポールを予定）で、PBIS 等の積極的生徒指導と共に推進されているプログラムとの相乗的な成果や課題についての調査を行う。
4. 1～3から得られた成果を整理し、PBIS 等の積極的生徒指導の促進に有効な取組について整理し、PBIS の実施を、包括的 School Counseling の枠組みに位置づけ、効果的に導入するために必要なフレームワークを整理する。

④ 実施体制

PBIS 実践化：西山久子（全体計画・統括）、林田篤伸（研究成果のデータ入力等）

PBIS 体系化：西山久子（PBIS 理論化への先行研究の調査）、納富恵子（UDL 等併行する教育プログラムとの関係性に関する知見の共有）

⑤ 平成 28 年度実施による研究成果

PBIS の実践化への支援：福岡県内公立中学校での取組を先行実践として、岡山県内公立中学校における PBIS の実践における成果について、いくつかのエビデンスを示すことができた。まず、小学校での段階的な導入によって、児童の学力や学校適応への意識が高まる可能性を示唆されていることから（古市・西山，2015）、PBIS の実践を通して規範意識の向上や問題行動の軽減、学校適応の改善に、応用行動分析学の理論に基づく PBIS の導入を行った。それによって、中学生を対象とした、学年単位の積極的行動支援による実

践から、規範行動の向上への効果と取組に必要となる専門的支援の有効性が示された。まず、規範行動自己評定尺度では、対人的規範遵守および個人的規範遵守で、実践後の平均点の上昇が有意であった。先行研究で向上が見られなかった対人的規範遵守も向上が見られたことは、学年全体での取組の成果といえる。また、自己有用感尺度の下位尺度である「教師との関係」における自己有用感でも、実践後の平均点の上昇が有意であった。これらのことから、学年単位での一次的援助サービスにおける積極的行動支援が、自己有用感を高め規範行動の意識の向上に有効であることが示唆された。

実践面での PBIS の推進と共に、学習的な側面からの学校適応への貢献について、学びのユニバーサルデザイン (UDL) の概念と、包括的 School Counseling の概念との関係性について、RTI をフレームワークとして検討し、それに関する情報収集および理論研究を行うことができた。加えてこれらを統合して推進しているアジア圏での取組についても、シンガポール・香港の実践者と連携することによって、取組の現状や教育施策としての自治体からの情報発信の在り方などについて理解を深めることができた。

それらを理論的に統合し、成果を見出すため、包括的 School Counseling として協力先での学校適応援助の研修において提案することについては、概念の整理などをさらに深め、実践面での理解をふまえていくことは、今後の課題となった。

⑥ 今後予想される成果

平成 28 年度に取り組んだ成果をもとに、以下のことを成果としてまとめる予定である。

- PBIS 等の導入を成功させることの基盤に求められる校内体制や、併行して推進することが必要な取組について把握することで、これまで米国をはじめとする海外での先駆的なプログラムのわが国への導入に課題となってきた個々の取組ごとの取り入れを、学校適応援助に関するプログラムとして取り入れることに向けた実践上の知見を得る。
- 得られた成果から、わが国で効果が期待される PBIS の導入にあたり、必要な基盤づくりについて、実践先への情報提供を行い研究の成果を見極める。併せて UDL 等の包括的 School Counseling を促進させる取組との併行から期待される効果を予測することで、実践的成果を高める。
- 取組の中核となる担当者（生徒指導・教育相談・特別支援教育・人権など）が持つべき力量が何であるかを個別の調査の整理から明らかにする。
- 申請を検討する競争的資金獲得に向け、実践研究の構想に有益な実証的成果を得て、実践先の確保に役立てる。

⑦ 研究の今後の展望

本研究では、包括的 School Counseling のなかで、「学びのユニバーサルデザイン (UDL)」を実践する上での 3 層構造と、PBIS で示す生徒指導上の位置づけとが、特別な教育的ニーズに対する介入の流れを示す RTI という概念をフレームとして、構造化される可能性が示された。PBIS による一次的援助サービスの展開は、その中での適応が困難な生徒の支援における課題に対して RTI という概念に基づいて、段階的に個別化された支援を行うことが効果的であることが示唆されている。

実践先においては、まず PBIS を中学校で実施し、校内での生徒指導上の課題の低減を目指すことを継続し、それと併行して学校適応において学習面や認知面での困難を示す生徒に対する UDL の導入を行うことが求められる。これらをどう校内での援助サービスと指導サービスのなかで位置づけるかという点から、RTI の実践面での共通性についての論考を行うことが必要となる。これについては、現在までで明らかになっている UDL の実践的概念に加え、RTI に関する構造的な概念を、生徒指導の実践において整理することで、理論的関連性についてのモデルを示すことが可能となる。

現時点までに整理された PBIS を推進に加え、その基盤となる校内の包括的 School Counseling のあり方について、先行実践に基づいて、本学の紀要等に投稿する。それをふまえて、生徒指導体制の中に RTI と PBIS の共通する枠組から捉えることで、生徒指導・特別支援教育・教育相談の三者の間で共有されやすい School

Counseling の実践モデルを示すことを目指す。

加えて、こうした実践を推進する際の校内担当者の活動の在り方についての論考を深め、具体的な担当者の役割モデルを示す。これについては現在印刷中の図書において章単位での論考を執筆し現在印刷中である。

⑧ 主な学会発表及び論文等

主な学会発表

林田篤伸・西山久子 2016 中学生へのクラスワイドな積極的行動支援 (PBIS) の成果に関する研究—

一次的援助サービスとしての規範行動の向上に向けて— 日本学校心理学会第 18 回大会ポスター発表

西山久子 2016 「UDL 授業および教員研修の実際の視察報告」, シンポジウム「教職大学院で取り組む

UDL ガイドラインを用いた授業改善のための校内体制と推進—米国視察からの示唆と中学校での実践」

第 25 回日本 LD 学会東京大会

西山久子 2016 教育相談コーディネーターの現状と課題Ⅱ—学校において教育相談コーディネーター

が機能していくために何が必要か— : 自主シンポジウム日本学校心理学会第 18 回大会 (自主企画)

主な論文

林田篤伸・西山久子 2017 中学生へのクラスワイドな積極的行動支援 (PBIS) の成果に関する研究—

一時的援助サービスとしての規範行動の向上に向けて— 福岡教育大学紀要 66-4 125-133

主な図書

西山久子 2016 援助サービスシステムのアセスメント. 「学校心理学ハンドブック第 2 版—「チーム学

校」の充実をめざして」. Part II, C-1-8. 日本学校心理学会編. 120-121